



子どもの森づくり通信

(発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

JP子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2017年9月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

「JP子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



今年も、朝夕に秋の気配が漂ってまいりました。

東京でも、チラホラ落ちている“どんぐり”の種を見かける様になり

また、新しい活動の季節が巡ってまいりました。

「子森通信」今月号では、あらためて10周年記念企画をご案内しております。

皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

(目次)

1. あらためて、「JP子どもの森づくり運動10周年記念企画」参加園募集のご案内
2. JP子どもの森づくり運動活動レポート：「ナツオワキャンプ2017」レポート
3. 事務局からのお知らせ
 - 新・どんぐり博士の育苗講座（2017年9月号）

■「JP子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「JP子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」運営体制

・運営：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛：日本郵政グループ

・後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟

(公社) 大谷保育協会

(公社) 国土緑化推進機構

NPO法人C・C・C富良野自然塾

(一社) 日本森林インストラクター協会

NPO法人自然体験活動推進協議会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(一社) 日本オート・キャンプ協会

(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

保育環境研究所ギビングツリー



1. あらためて、「J P子どもの森づくり運動10周年記念企画」参加園募集のご案内

J P子どもの森づくり運動（以下、運動）は、2008年から、保育園・幼稚園・こども園を活動拠点に、幼児(少)期の子どもたちに“どんぐり”を育てる活動を通じて自然と環境の体験を提供し、子どもたちの「共に生きる力」と「多様な環境意識」を育むことを目的にスタートしました。**それが、これからの時代を生きる子どもたちにとって必須の価値観であるからです。**おかげ様で運動は、多くの園長先生、職員の方にご共感いただき、現在、全国で約120の園に活動にご参加いただいています。毎年、約6000人を超える園児さんが、どんぐりを拾ったり、育てたり、植えた苗木を見に行くこと、命の育みを見守ることに参加されていることとなります。

そんなJ P子どもの森づくり運動が、2018年に活動10周年を迎えます。

そこで、節目の機会として、これまで蓄積された膨大な活動の実績を検証し、成果をとりまとめ、活動の次の展開につながる成果物として結実させたいと思っています。**重要なことは、わたしたちはその作業を、参加園の皆さんとの協働の中で進められればと願っていることです。**

つきましては、そんな協働を実現するために「J P子どもの森づくり運動活動10周年記念企画」（以下、10周年企画）を提案したいと思います。10周年企画は、**1. 活動を“みえる化”して、共有すること：「保育ドキュメンテーション」**
2. 活動の成果を実感すること：「どんぐり同窓会」 **3. 子どもたちに生物多様性を体感してもらうこと：「ぼくの木、わたしの木を知ろう！」**の三つの活動から構成されています。もちろん10周年企画は、これまでの活動をとりまとめることだけではなく、保育が改善され、子どもたちに上質な自然と環境の体験を提供する活動でもあります。企画の活動レポートは、2018年度末に発行予定の「10周年記念冊子」に掲載し、皆さんと共有したいと思います。

事務局では、これまで、「子森通信」6月号から三回にわたって10周年企画を提案してまいりましたが、運動のこれからを共に考える重要な取り組みとして、今月号であらためて企画への参加をご案内する次第です。

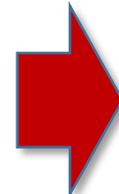
企画の詳細は、同封のパンフレットをご参照下さい。多くの参加園のご参加をお願い申し上げます。



J P子どもの森づくり運動10周年企画 1
～活動を“みえる化”して、共有する～
保育ドキュメンテーション

J P子どもの森づくり運動10周年企画 2
～活動の成果を実感する～
「どんぐり同窓会」

J P子どもの森づくり運動10周年企画 3
～生物多様性を体感してもらう～
ぼくの木、わたしの木を知ろう！



10周年記念冊子

2. J P子どもの森づくり運動活動レポート：「ナツオワキャンプ2017」レポート

2017年8月26日（土）、27日（日）の一泊二日で、J P子どもの森づくり運動の自然体験、環境学習キャンプ「ナツオワ（夏の終わりに）キャンプ2017」が開催されました。昨年は、関東ブロック対象として、山梨県「河口湖自然楽校」にて開催されましたが、今年は関西ブロック対象ということで、福井県大野市「前坂キャンプ場」での開催となりました。今回のキャンプは、幹事園の大野幼稚園の皆さんの様々なアイデアと周到な準備のおかげで、素晴らしいキャンプ企画となりました。



以下、主な体験プログラムをご紹介します。

○プログラム：「山の音、山におい」

あらかじめ下見して撮影した、20種類の植物の写真シートを参加者に渡し、同じものを見つけてもらいます。活動の際は、参加者を四つのグループに分けて、グループごとに活動します。見つけてきた植物にスミを塗り、布に貼り付けて形を取り、グループの旗を作りました。



○プログラム：ストーンペインティング

会場の「前坂キャンプ場」は、九頭竜川水系の清流「石徹白（イトシロ）川」沿いにあります。そんな立地を生かして、川原から好きな形の石を拾って、絵を描いて自分だけのストーンアート作品を作ります。写真は、お父さんのアイデア作品、カメラです。プログラムは、他にも、ホットドッグやピザづくり、自然の暗闇を活用した「夜空と虫の声」等、盛りだくさんのプログラムを体験して、一日目が終了しました。



二日目は、早朝トレッキングの後、5月に苗木を植えたフィールドの下草刈りを行いました。最後にみんなで記念撮影です。今回のキャンプは天候にも恵まれ、本当に充実したキャンプとなりました。ご参加いただいた皆さん、いろいろなプログラムを準備していただいた大野幼稚園の皆さん、素晴らしいフィールドをご提供いただいた「前坂キャンプ場」さんに、心より御礼申し上げます。また来年お会いしましょう。

（*活動の詳細は、ホームページをご覧ください。）

3. 事務局からのお知らせ

1) 「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」連携事業認定表彰式レポート

2017年9月16日(土)、神戸国際会議場にて開催された「第7回生物多様性全国ミーティング」において、JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」が「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」認定連携事業第10弾として表彰されました。当日は、UNDB-J委員長代理 涌井史郎氏より、子森ネット清水に認定証が授与されました。全国の参加園、さらに日本郵政グループをはじめ、ご支援いただいております多くの方々と共に推進してまいりました活動が、また一つ評価されましたのでご報告します。



2) ユーチューブチャンネル「子森チャンネル」のご案内

ユーチューブチャンネル「子森チャンネル」で、様々な活動風景を動画で配信しています。新コンテンツもアップ中です。是非、ご覧下さい。



* 視聴方法

- ① 「子森ネット」ホームページ (<http://www.kodomono-mori.net>)
⇒子森チャンネル&通信 ⇒子森チャンネル
- ② 左記のQRコードからもご覧いただけます。

●新・どんぐり博士の育苗講座(2017年9月号) ~もうすぐどんぐり拾いです。~
澄んだ青空が広がる穏やかな秋の日が増えてきました。この時期になれば水やりは土が乾いたときだけで大丈夫です。またコナラやクヌギの木々にはどんぐりが実り出しました。どんぐり拾いまでもう少しですね。

子森ネット「どんぐり博士」：河内和男（森林インストラクター）



毎年のことですが、実って落ちたどんぐりを見るたびに、よくぞここまで子どもが拾って遊びたくなる造形になったものだと感心させられます。

どんぐりは木の種です。木から落ちたときにコロコロとこころがったとしても、親の木から遠くへは行けません。樹木の種にはいろいろな形がありますが、どんぐりは特に移動能力の小さい種です。それを補ってくれるのが、リスやネズミなどの小動物です。これらの動物は栄養豊富などんぐりを餌とし、冬越し用に巣や行動範囲に埋めて保存食にもします。埋めたどんぐりもちゃんと掘り返して食べますが、一部食べ残されたどんぐりが、親木から離れた場所で芽を出すことができるのです。

木がどんぐりを実らせるようになったのは、人類が地球上に現れるはるか以前です。しかし、ヒトという生物の子どもという輩が、リス以上にどんぐりの移動を助けてくれる可能性が大きいと、まるでわかっていたかのようにはどんぐりは子どもたちを引きつけます。

身近にどんぐりの木がある園の皆さん。さあ、今年もどんぐり拾いに出かけましょう。大きな木の下に落ちているどんぐりは、その場で芽を出しても、親木がある限り大きく生長することはできません。どんぐりを森の動物たちと分け合って拾い、子どもたちに楽しんでもらい、そのいくつかは苗に育てて、開発や災害、病害虫などで木が減ってしまった場所に植えて、大きな木に生長できたら素敵ですよ。ただし、地元の森でね。